



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)クレアホームズ掛川 新築工事	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	1.9	/5		がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目				
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		3.4				
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①断熱等性能等級4 ③レースカーテンとバルコニーで昼光制御 ④住宅性能評価における劣化対策等級3相当 ④空調給排水配管の更新対策に配慮 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦断熱等性能等級4 ⑨BEI=0.78 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑫リサイクル材を2品目採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
			3.2	3.2.1	③	昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
		2			⑧	自然エネルギー利用
		3			⑨	設備システムの高効率化
		4	4.1		⑩	モニタリング
			4.2		⑩	運用管理体制
	LR-2	1	1.1		⑪	節水
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
		2	2.1		⑫	材料使用量の削減
			2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用
			2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
			2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
			2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
			2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
		3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤
				3.2.2	⑬	断熱材
				3.2.3	⑬	冷媒
	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		3.0				
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰耐震クラスA 	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
				2.1.2	⑯	免震・制振性能
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
				2.4.3	⑰	電気設備
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
				2.4.5	⑰	通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		1.9				
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
	Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		2.5				
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/㉓温熱環境悪化の改善) 	Q-3	1			⑳	生物環境の保全と創出
		2			㉑	まちなみ景観への配慮
		3	3.2		㉒	敷地内温熱環境の向上
	LR-2	2	2.5		⑳	持続可能な森林から産出された木材
	LR-3	2	2.2		㉓	温熱環境悪化の改善

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クレアホームズ掛川 新築工事	階数	地上15F
建設地	静岡県掛川市紺屋町1番2、1番3、1番4	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年3月22日
敷地面積	758 m ²	作成者	共同エンジニアリング(株) 川邊 毅
建築面積	307 m ²	確認日	2023年3月22日
延床面積	3,575 m ²	確認者	共同エンジニアリング(株) 川邊 毅



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	外壁はグレーージュ色を基調とし落ち着いたある雰囲気周囲環境に配慮した計画とし調和のとれた建物としている。 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	その他 0
Q1 室内環境	専有部分について、断熱等性能等級4とし、高い昼光率を確保している。また、F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用するなど、室内環境の向上に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー	断熱等性能等級4、BEI=0.78としている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率75%とし、光害抑制に配慮している。
Q2 サービス性能	住宅性能評価における劣化対策等級3とし、空調給排水配管の更新対策に配慮した設計としている。	
LR2 資源・マテリアル	LGS下地やリサイクル材を積極的に採用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される